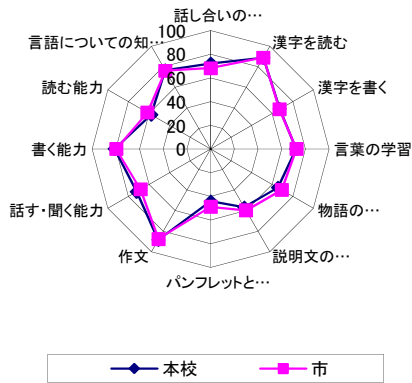


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	72.1	68.2
	漢字を読む	89.0	89.0
	漢字を書く	67.3	67.0
	言葉の学習	72.1	72.3
	物語の内容を読み取る	65.4	69.2
	説明文の内容を読み取る	56.9	59.8
	パンフレットと話し合いの内容を読み取る	44.1	48.9
	作文	88.6	87.8
観点別	話す・聞く能力	72.1	68.2
	書く能力	81.0	79.5
	読む能力	57.8	61.5
	言語についての知識・理解・技能	76.6	76.2



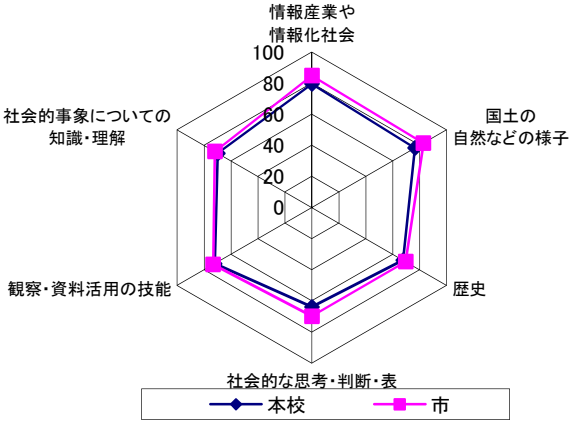
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・全体的には市の平均正答率より高い。話し手の工夫を考えながら話の内容を聞くことや、司会者の役割を理解して適切な言葉づかいで話すことの正答率が高くなっているが、話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことについてはやや低い。	・学習活動全体において、聞く態度の更なる育成を図り、話の内容や話し手の意図を聞き取る力を高めていく。また、役割を交換しながら話し合いを行うことにより、それぞれの立場での工夫を身に付けさせる。さらに、自分の立場や意図をはっきり相手に伝えることができる意見の話し方を指導し、身に付けさせる。
漢字	・市の平均正答率と同程度である。ただ、第5学年配当漢字を読んだり書いたりする問題の正答率が、市の平均よりも下回っているものが多い。	・授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に練習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。
言葉の学習	・市の平均正答率とほぼ同程度である。俳句や敬語(尊敬語)についての理解は高いが、三字の熟語の構成や敬語(謙譲語)についての設問の正答率が低くなっている。	・熟語の構成に関しては、折に触れ復習できるように、国語の授業において繰り返し指導する。敬語については、日常の会話の中で教師が意識して取り上げたり、同じ言葉を尊敬語や謙譲語に直す活動を行ったりして定着を図る。
物語の内容を読み取る	・市の平均正答率よりやや低い。登場人物の心情を読み取る設問の正答率が高いが、場面の情景を思い浮かべる設問の正答率が低くなっている。	・登場人物の気持ちを読み取る際には、必ずその根拠となる行動や言葉などの叙述を明らかにさせたり、情景描写などからも考えさせたりする。また、読書活動を推奨し、多くの物語に触れさせる。
説明文の内容を読み取る	・市の平均正答率よりもやや低い。文章の内容を読み取る設問や、構成を押さえながら読み取る設問についての正答率が低くなっている。	・段落ごとの要点をまとめたり、段落相互の関係をとらえたりする練習を繰り返し、力の伸長を図る。また、筆者のいちばん言いたいことが書かれている段落と、具体的に説明している段落とを見極め、その関係を考えることにより、文章の内容を的確にとらえる力を養っていく。
パンフレットと話し合いの内容を読み取る	・市の平均正答率よりも低い。資料と話し合いの内容を正しく読み取って考えたり、適切に文章を書き加えたりする設問の正答率が低くなっている。	・文章を正しく読み取り、大事なところを箇条書き等でまとめ、自分の考えを書き加える練習を行う。また、国語の学習だけでなく他教科等においても、複数の資料を関連付けながら正しく読み取る活動を取り入れ、力の定着を図る。
作文	・市の平均正答率をやや高くなっている、正答率は85%を超えているものがほとんどで、おおむね定着していると言える。ただ、指定された長さで文章を書くことについては、市の平均正答率を下回っている。	・文章を書くときの基本的なきまりを確認し、身に付けさせる。また、長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見とその理由を区別して書いたりすることを繰り返し、書く力の定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	79.4	84.7
	国土の自然などの様子	76.5	82.7
	歴史	67.6	69.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.9	69.9
	観察・資料活用・技能	72.1	73.3
	社会的現象についての知識・理解	69.8	71.9



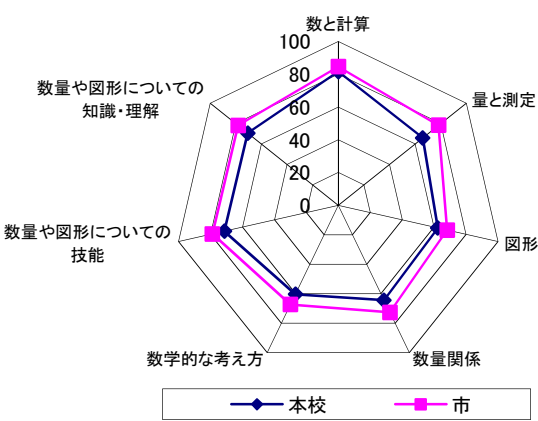
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	・市の平均正答率を下回っているが、メディアの種類とその特色についての設問についての正答率は高くなっている。ホームページを作成する際の注意すべき内容について判断する設問の正答率が低く課題がある。	・社会の授業だけでなく、日常生活の中で、いろいろな情報手段の特色について触れ、その特色に応じた活用の仕方を考えさせたり、情報が活用されている場面を紹介したりすることによって理解を深めるとともに、情報モラルの内容を取り入れた学習を進める。
国土の自然などの様子	・市の平均正答率を下回っているが、資料を読み取り林業の現状を把握する設問についての正答率は高くなっている。環境を守る取り組みについて判断する設問の正答率が低く課題がある。	・重要事項を復習するとともに、自分たちの生活と環境との関わりについて、新聞の記事やテレビのニュースなどを紹介することなどによって、国土や自然に対する関心を高める。
歴史	・平均正答率は市よりもやや下回っているが、縄文時代や弥生時代のくらしの様子や室町時代の文化に関する知識を問う設問には、高い正答率を示しているものが多い。自由民権運動がさかんになった時期について把握する設問の正答率が低くなっている。	・各時代の主な人物や出来事などについて確認するとともに、その人物が行ったことや出来事が、世の中や人々の生活をどのように変化させたのかについても、併せて確認させ、理解を深める。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	81.6	84.6
	量と測定	66.0	78.3
	図形	62.4	68.2
	数量関係	64.4	72.6
観点別	数学的な考え方	60.4	67.3
	数量や図形についての技能	71.4	78.9
	数量や図形についての知識・理解	70.7	78.2



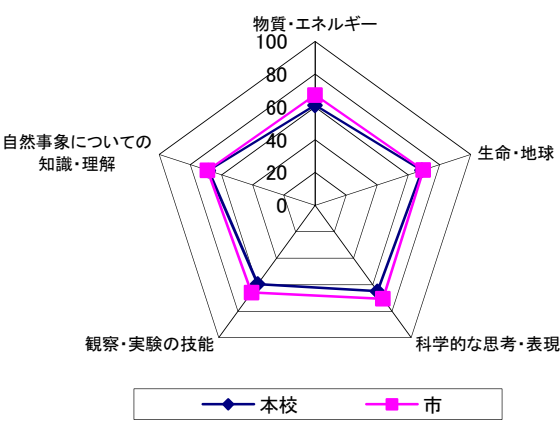
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市よりやや下回っている。分数の乗法の問題において85%以上の正答率を示している。しかし、分数・小数や整数の乗除混合計算では、少数や整数を分数に直したり、正しく計算したりすることができない。また、分数の除法の文章題では、題意が捉えられず、正答率が55%を下回っている。	・分数や小数の四則計算の基本的なやり方を復習するとともに、朝の学習や家庭学習において計算練習に取り組ませ、いっそうの力の伸長を図る。また、文章題では、問題文にある数値の関係をとらえるために、図をかいたり、整数に置き換えて考えたりする方法を指導し、正しく立式できる力を養う。
量と測定	平均正答率は市より大きく下回っている。平行四辺形の面積を求めたり、三角柱や円柱の体積を求めたりする問題に誤答が目立った。また、時速を分速に直す問題では正答率が45%を下回っており、速さの単位の関係についての理解が不十分である。	・面積や体積については、それを求める公式を、その意味とともに復習し、正確に求めることができる力を養う。また、速さについても、「速さ」「時間」「道のり」の意味や関係、それぞれを求める公式を確認し、多くの問題に取り組ませることによって定着を図る。さらに速さの単位についても時間の関係を確認させることにより、理解を深める。
図形	平均正答率は市よりやや下回っている。特に円を使って正多角形をかく問題では正答率が56%で、円の半径から円周を求める問題では正答率が40%を下回っており、定着が不十分である。	・円を使って正多角形をかいたり、半径から円周を求めたりするような、前学年の図形に関する基本的な内容を確認し、反復練習を行う。また、点対称な図形では繰り返し作図させることにより、対応する点についての理解を深める。
数量関係	帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。また、情報を読み取り、比を使って必要な量を求める問題では正答率が35%を下回った。	・帯グラフから比較量を求める問題では、前学年の学習内容である百分率について復習するとともに、他教科等でも百分率で表された数値やグラフなどに着目させ、読み取らせることによって理解を深める。また、比を使って必要な量を求める問題においては、文章問題に数多く取り組ませることによって、文章や資料から正しい情報を読み取る力を養う。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	61.0	67.3
	生命・地球	68.7	69.5
観点別	科学的な思考・表現	65.0	70.6
	観察・実験の技能	59.5	65.9
	自然事象についての知識・理解	68.4	69.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を下回っている。特に前学年で学習したふりこの1往復する時間の求め方や実験をする際の条件を問う設問についての正答率が低い。また、水溶液の性質とはたらきに関する問題の正答率が低くなっており課題がある。	・前学年の学習内容については、それぞれ内容の重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。また、水溶液の性質と働きに関しても、実験の様子を想起させるなどして確認させる。実験においては、結果を生み出した理由について、自分で考えたり話し合ったりしてまとめる活動を取り入れる。
生命・地球	・市の平均正答率とほぼ同程度である。日光による葉のはたらきを調べる実験で、条件の理由を問う設問の正答率は高く十分に理解できている。ただ、実験の結果を考察する問題の正答率が低くなっている。	・定着度の低い内容については、重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。特に、人のかからだのはたらきで学習した消化の仕組みについて確認する。